**おおさかＱネット「手話言語」に関するアンケート分析結果概要**

* **実施日**　　平成28年8月1日（月）
* **サンプル数**　　1,000名（国勢調査結果（平成22年）に基づく性・年代・居住地（4地域）の

　　　　　　割合で割り付けた15歳以上の大阪府民）



**大阪市域：大阪市**

**北部大阪地域：豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町**

**東部大阪地域：守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市**

**南部大阪地域：堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村**

* **調査概要**

**１．調査目的**

平成23年の障害者基本法の改正で、言語に手話を含むことが明記される中、現在、大阪府では手話言語条例の制定を検討中。

そこで、同条例の方向性や手話言語の普及に向けた取組み方策の検討に必要な府民意識等を明らかにする。

**２．主な調査（検証）項目**

（１）手話を言語と理解している人は、そうでない人に比べて、手話に対して関心を持っている人が多く、手話学習の経験者も多い

（２）聴覚障がい者と接した経験の有無によって、手話に対する関心度や手話を習った経験の有無に差がある

**３．主な調査（検証）結果**

（１）手話が言語として認知されていることを知っている人は、そうでない人に比べて手話に関心のある人が多く、また、手話を学んだ経験のある人も多かった。

（２）聴覚障がい者とコミュニケーションを取った又は取ろうとしたことのある人は、そうでない人に比べて、手話に関心がある人が多く、手話を学んだことのある人も多かった。

* **分析結果等の概要**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※

（注）

１．「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社のインターネットユーザーであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

２．割合を百分率で表示する場合は、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

３．図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

４．図表下にカイ２乗検定の値（ｐ値）を記載しているものは、信頼度5%水準で統計上の有意差がみられたもの。

５．複数回答のクロス集計については、カイ２乗検定を行っていない。

**１．手話言語に対する理解と手話に対する関心度、手話学習の経験の関係について（仮説1関係）**

* 手話が言語として認知されていることを知っている人は、そうでない人に比べて手話に関心のある人が多く、手話を学んだ経験のある人が多いことが分かった。なお、手話に関心のある人ほど当然に手話学習の経験者も多い結果であった。（図表1-1、1-2、1-3）

【図表1-1】





【図表1-2】





【図表1-3】





**２．聴覚障がい者と接した経験の有無と手話に対する関心度や手話学習の経験の関係について（仮説2関係）**

* 聴覚障がい者とコミュニケーションを取った又は取ろうとしたことのある人は、そうでない人に比べて、手話に関心がある人が多く、手話を学んだことのある人が多いことが分かった。（図表2-1、2-2）

【図表2-1】





【図表2-2】



